

FANATIC RAY & HAWK



高性能 09FALCON のポテンシャルがフリーライドボードに



ハイエンドボード FALCON をユーザーフレンドリーに改良した RAY (左) と HAWK (右) RAY はスラロームボードとしても使える性能を持ち、HAWK はスピードを備えたアクションボードとして高い完成度を誇る

ようになっている。

また、直進安定性を持たせるとしても不足がちなカービング性能だが、2010RAY は操作性もとてもよく、ラフ、ベアなどのアップダウンのポジショニング移動の反応もスムーズで、レイルコントロールも楽だ。そのため、ジャイブもとてもイージーにコントロールが可能だ。

一般人ならばレースで使用してもコントロールし切れるので、かえって良い成績を残すことができるかもしれない。もちろんファンライドやロングクルージングと多目的使用しても満足できるボードとなっているため、バリバリのレーサーから初中級者のプレーニングボードとしても適して入りと言えるだろう。

一方の HAWK は、もともとフリーライドボードということもあって、FALCON や RAY に比べると地味に思われがちなモデルだが、今年の HAWK はとても素晴らしい出来上がりになっていると言えるだろう。乗ったのは HAWK123、RAY 同様に同様にライトフィニッシュバージョンになっているため、とても軽い仕上がりで、この軽さが、走りの性能全てに好影響を与えている。

何といっても HAWK のいいところは抜群の操作性だ。あらゆる海面でストレスなく走ることができ、スピードのアップダウン、ジャイブコントロールなど、どれをとっても、これほどイージーに操作できるボードは他にないと言っていいほどの走りを見せる。特にバランスが前後左右ともに安定しているため、微風時でのタックやジャイブもとても安定して行うことができるのもうれしい。

さらにライトフィニッシュになったことでプレーニングスピードも前年モデルよりもワンランク上の走りができる。FALCON のスピード性能を感じることも可能なほどだ。

そして、この HAWK でとくに体感してもらいたいのは、スーパーイージーなレイルコントロールです。とくに荒れた海面のほうが威力を発揮し、バンプ&ジャンプ用のボードとしても侮れないコントロール性能だ。もちろん、ここ本栖湖のような平水面でも、スーパーイージーなレイルコントロールを実感することができる。とくにトップスピードからのレイルコントロールがとてもイージーに行えるので、最高のレイルターンを実現する最強のカービングボードと言えるだろう。是非自在に操ることのできるドライブの利いたレイルターンは体感する価値大だ。

まさに普通のセイラーのために申し分のないポテンシャルと性能バランスを持った逸品だと、自信を持ってオススメできるボードだ。

RAY LTD

HAWK LTD/WS

RAY LTD	95	110	125	140
全長(cm)	245	245	245	245
最大幅(cm)	59	65	70	77
ボリューム(ℓ)	95	110	125	140
重量(kg)	5.8	6.1	6.7	7.3
適応セイル	5.5-8.0	6.0-8.5	6.5-9.0	6.5-9.5
フィン	G10Fin 34	G10Fin 37	G10Fin 43	G10Fin 49
フィンボックス	TUTTLE		Deep TUTTLE	

LTD/WS	100	120	135
全長(cm)	245	249	249
最大幅(cm)	62	68	73
ボリューム(ℓ)	100	120	135
重量(kg)	6.0/7.0	6.4/7.5	6.9/8.0
適応セイル	5.0-8.0	5.5-8.5	6.0-9.0
フィン	G10 Fin 34	G10 Fin 39	G10 Fin 46
フィンボックス	POWER		

※工法 ACS/LF = Aramid Carbon Kevlar Sandwich Light Finish

LTD ※工法 ACS/LF = Aramid Carbon Sandwich Light Finish
WS/LF = Wood Sandwich Light Finish

マイルド・リアルスラロームの RAY ハイポテンシャル・フリーライドの HAWK

発表された FANATIC の 2010 モデルの中で、注目モデルは RAY と HAWK だろう。なぜならこれらは、スラロームボードの名艇である "09 FALCON" を元にして作られ、その FALCON の魅力的なポテンシャルやエッセンスを、幅広いセイラーに味わってもらえるように開発されたボードだからだ。

RAY は 09FALCON とほぼ同じシェイプを持つ。ただ、一般の腕自慢の人たちでも乗りこなせるように、ボトムのコネーブを浅くするなど、マイルドにするための変更を行っている。つまり RAY はレーサーのようなエリート向きではなく、一般の上級者向きのスラロームボードということだ。

もう一つの HAWK は、根幹に FALCON の持つスピード性能を残しつつ、それをさらにマイルドに乗りやすくしたフリーライドボード。たとえば、加速は爆発的ではないにしても、多くの人が満足する高いアベレージスピードを出すことができるスピード特性や、普通の人にとっても重要なスムーズなターン性能を併せ持つ。

こうして 09FALCON を中心にして、RAY、HAWK の 3 モデルを比べてみると、性能の特徴やユーザーターゲットにおいて、きれいなグラデーションのように、実に見事な仕分けが行われている。だから、どんな人にも自分にふさわしいプレーニングボードを見つけれられるのは嬉しい限りだ。

コング鈴木がさっそくこのモデルを試乗チェック!

果たして、実際に乗ってみても、その謳い文句を感じることができるのだろうか? 3つのモデルの性能を熟知したコング鈴木がそれを早速チェックした。

まず 2010 の RAY125 を本栖湖にてテスト。ここはほとんどの方が知っている通りのスーパーフラット海面。今回は RAMF9 の 7.8 を乗せてのテストとなった。

昨年モデルと比べて大きく変わったのは、ライトフィニッシュバージョンとなったことより、総重量がとても軽くなったこと。アウトラインやロッカーラインは 09 年モデルの FALCON を彷彿させるとてもよく似たデザインとなっている。唯一 09 フォルコンと大きく違う部分はボトムのコネーブがディープではないということである。

実際に乗ってみると、軽量化されたこともあり、とてもスムーズでオートマチックな感じでリフトアップをしていくので、FALCON に近い加速感が味わえる。また、常に安定したノーズポジションをキープしやすいため、直進安定感が抜群に良く感じる。

また、FALCON のような強力なトルクが発生しないため、足元にストレスを感じることなくプレーニングを続けられ、長時間プレーニングをしても疲れることなく走り続けられることは大きな魅力で、走りに関しては、一般の方でも高いスピード性能を楽に味わえる